資料３

議案３：地域公共交通確保維持改善事業に係る事業評価について

１．目的等

地域公共交通確保維持改善事業実施要領（平成２３年１２月５日付け国総支第３４号）及び地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価実施細目（平成２３年１１月２８日付け国総支第３０号）に基づき、地域公共交通確保維持改善事業の効果的かつ効率的推進を目的として、事業の実施状況の確認、目標達成状況等の評価を行う。

２．事業評価対象系統・事業

| 事業名・系統名・地域名等 | | 事業期間 |
|---|---|---|
| 地域内フィーダー系統確保維持事業 | ふくふくバス鷹巣・棗線（鷹巣・棗地域） | H26.10.1<br>～H27.9.30 |
| | 酒生いきいきバス（酒生地域） | |
| | 岡保地域コミュニティバス（岡保地域） | |
| | 殿下かじかポッポー（殿下地域） | |
| | 麻生津循環線（福井鉄道株式会社） | |
| | 清明循環線（福井鉄道株式会社） | |
| | 美山地域バス芦見ルート（福井市） | |

３．評価報告書（案）…下記のとおり

〇地域公共交通確保維持改善事業・事業評価　記載様式（別添１）

〇地域公共交通確保維持に関する自己評価概要書（中部様式①）

（別添1）

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

平成27年12月25日

**協議会名：** 福井市地域生活交通活性化会議

**評価対象事業名：** 陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業（地域内フィーダー系統）

| ①補助対象事業者等 | ②事業概要 | ③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況 | ④事業実施の適切性 | | ⑤目標・効果達成状況 | | ⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 【補助対象となる事業者名等の名称を記載】 | 【系統名・航路名・設備名、運行（航）区間、整備内容等を記載（陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助（調査検討の経費を除く。）を受けている場合は、その旨記載）】 | 【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】 | A・B・C評価 | 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】 | A・B・C評価 | 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】 | 【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか（方向性又は具体的な内容）を必ず記載すること。】<br><br>※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載 |
| 福井交通株式会社・鷹巣・棗線 | 市北西部の鷹巣地区蓑浦町から、交通空白・不便地域である白方町等を経由して福井温泉病院に至る路線<br>（H25：路線定期運行）<br>（H26：デマンド運行） | 交通弱者への最低限の移動手段を効率的に確保し、事業の継続性を高めていくために、平成26年度事業から鶉山バスの一部統合等も含め、デマンド運行に移行した。<br>沿線住民から成る運行協議会や運行事業者による利用促進活動を行った。 | A | 計画どおり事業は適切に実施された。 | B | デマンド運行に移行し2年度目となり、利用実績は伸びたが、目標値に対してはわずかに下回った。<br>・年間利用者数：3,300人に対して3,072人<br>・利用者1人あたり行政負担額：1,800円／人以下に対して1,804円／人 | 定期的な利用者にはデマンド運行に対する理解が得られてきており、利用頻度が増加している。<br>利用者の獲得に向けて、地元住民や交通事業者とも連携しながら利用が少ない地域への周知広報を行い認知度を高めていく。 |
| 京福バス株式会社・酒生いきいきバス東郷ルート | 市街地の東部に位置する酒生地域において、高尾町の斜面住宅団地を起点に、既存集落を経由してJR越前東郷駅や済生会病院、スーパーマーケット等に至る路線（路線定期運行） | 引き続き、地域の運行協議会が主体となって、時刻表の全戸配布やポケット時刻表の作成・配布等を周知活動を行った。<br>地域の祭りなどのイベント等にも活用されており、地域活性化のツールとしても活用されている。 | A | 計画どおり事業は適切に実施された。 | A | 単なる公共交通不便地域の解消だけでなく、地域住民のコミュニティ醸成や地域活性化のツールとしても活用が図られている。<br>・年間利用者数：8,900人に対して9,328人<br>・乗継利用の割合：45%に対して52.2% | 高齢者を中心に定着が図られており、利用人数も増加している。<br>利用が少ない便を見直すとともに、利用が見込める施設等へ停留所を設置するなど効率化を図る。<br>また引き続き、地域のイベント等を利用し、隣接した地域との交流を深めることで、地域外の住民への利 |
| 京福バス株式会社・酒生いきいきバス北ルート | | | A | 計画どおり事業は適切に実施された。 | | | |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 京福バス株式会社・酒生いきいきバス南ルート | | | A | 計画どおり事業は適切に実施された。 | 利用者数・乗継利用の割合ともに目標値を達成した。 | めることで、地域外の住民への利用促進に向けた取り組みを行う。 |
| 京福バス株式会社・岡保地域コミュニティバス北周り | 市街地の東部に位置する岡保地域において、既存集落を経由して済生会病院、ショッピングセンターやスーパーマーケット等に至る路線（路線定期運行） | 定例的な行事やイベント等を開催するなど地域の取り組みにより、利用者数を大きく伸ばしている。<br>沿線の商店等の割引券が付いたチラシ配布なども一定の効果があらわれている。 | A | 計画どおり事業は適切に実施された。 | B | 酒生地域と同様に公共交通不便地域の解消だけでなく、地域住民のコミュニティ醸成や地域活性化のツールとしても活用が図られている。<br>・年間利用者数：9,000人に対して8,234人<br>・利用者の満足度：4.0に対して4.3<br>目標値には達していないが、昨年度と比較して利用者数は大きく増加した。 | 目標利用者数を達成するまでには至らなかったが、定着は図られた。公民館行事等の際には利用してもらうなど、利用者増に向けた促進活動を行う。 |
| 京福バス株式会社・岡保地域コミュニティバス南周り | | | A | 計画どおり事業は適切に実施された。 | | |
| 光タクシー有限会社・殿下かじかポッポー地区外ルート | 市南西部の殿下地域（中山間地域）の谷筋に散在する集落から、地区の中心部を経由して隣接地域の大規模商業施設に至る路線（区域運行） | 地区外からの利用者の獲得のために、地区外への周知広報を行ったが、多くの利用者の獲得には至らなかった。<br>利用が少ない地域への周知広報による利用促進を行う。 | A | 計画どおり事業は適切に実施された。 | B | 高齢者を中心に日常生活に欠かせない移動手段として定着が図られてきた。<br>・利用者1人あたり行政負担額：1,200円前後／人に対して1,489円／人<br>・乗継利用の割合：50%に対して60.0%と目標値を回った。 | 地区内に居住する高齢者等の利用がほとんどであり、将来に亘り利用者を拡大していくことは困難である。引き続き地区外からの利用者を獲得を目指すほか、利用者の獲得に向けて、地元住民や交通事業者とも連携しながら利用が少ない地域への周知広報を行い認知度を高めていく。 |
| 福井鉄道株式会社・青葉台ルート | 市南部の麻生津地区において、斜面住宅団地である青葉台や江尻ヶ丘、スーパーマーケットや鉄道駅等を経由する循環路線（路線定期運行） | 鉄道等との往復乗継割引切符の周知広報を強化し、地域内移動だけでなく、乗継ぎによる地域間移動を推奨することで利用促進を図った。 | A | 計画どおり事業は適切に実施された。 | B | 江尻ヶ丘団地等、従来バス交通サービスが希薄であった地域を中心に利用者が増加傾向にあり、徐々に定着が図られつつある。<br>・利用者数：7,900人に対して7,020人<br>・乗継切符販売数：30枚／月に対して17枚／月 | 鉄道等との往復乗継割引切符の周知広報を継続的に行い、地域内移動だけでなく、乗継ぎによる地域間移動を推奨することで利用促進を図っていく。<br>また、沿線の商業施設等の協力を得て、バス利用者への優遇措置を設けることで、さらなる利用者増を目指す。 |
| 福井鉄道株式会社・江尻ヶ丘ルート | | | A | 計画どおり事業は適切に実施された。 | | |
| 福井鉄道株式会社・大島下荒井ルート | 市南部の清明地区において、公共交通サービス圏域外の住宅団地や既存集落と、地域内の大規模商業施設を結ぶ循環路線（路線定期運行） | ショッピングセンターの敷地内でのバス停新設及びこれに伴う各ルートの一部経路変更し利便性の向上を図った。 | A | 計画どおり事業は適切に実施された。 | B | 杉谷町や大島町等の公共交通空白・不便地域の解消が図られた。<br>・利用者数：12,000人に対して12,946人<br>乗継切符販売数：20枚／月に対して6枚／月 | 鉄道等との往復乗継割引切符の周知広報を継続的に行い、地域内移動だけでなく、乗継ぎによる地域間移動を推奨することで利用促進を図っていく。<br>また、沿線の商業施設等の協力を得て、バス利用者への優遇措置を設けることで、さらなる利用者増を目指す。 |
| 福井鉄道株式会社・江端ルート | | | A | 計画どおり事業は適切に実施された。 | | |
| 福井鉄道株式会社・清明南ルート | | | A | 計画どおり事業は適切に実施された。 | | |
| 福井鉄道株式会社・清明南ルート公民館2度回り | | | A | 計画どおり事業は適切に実施された。 | | |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 福井市・美山地域バス芦見ルート | 市南東部の過疎地域に指定されている美山地域内の芦見地区において、子供や高齢者等の日常生活の移動手段としての路線（路線定期運行） | ・芦見地域の移動手段として定着しており、地域バスとして維持していく必要があるため、引き続き利用促進を図った。 | A | 計画どおり事業は適切に実施された。 | B | 椙谷町の公共交通空白・不便地域の解消が図られた。<br>・年間利用者数：610人に対して341人<br>・利用者の満足度：4.0に対して4.7<br>高齢の固定利用者の割合が多く、1名の減少が利用者数に大きく影響を及ぼす。 | 芦見地域の移動手段として定着している。また、高齢化が進んでいる地域であるため、今後も地域バスとして維持していく必要がある。そのためにも沿線地区に乗継ぎ情報を含んだ地域ごとのバス停の時刻表を作成して利用促進を図っていく。 |

# 平成27年度　地域公共交通確保維持に関する自己評価概要　（全体）

中部様式
1

## 福井市地域生活交通活性化会議

平成１９年８月２９日設置
フィーダー系統　　平成２６年６月３０日確保維持計画策定

### ①協議会が目指す方向性（Plan）

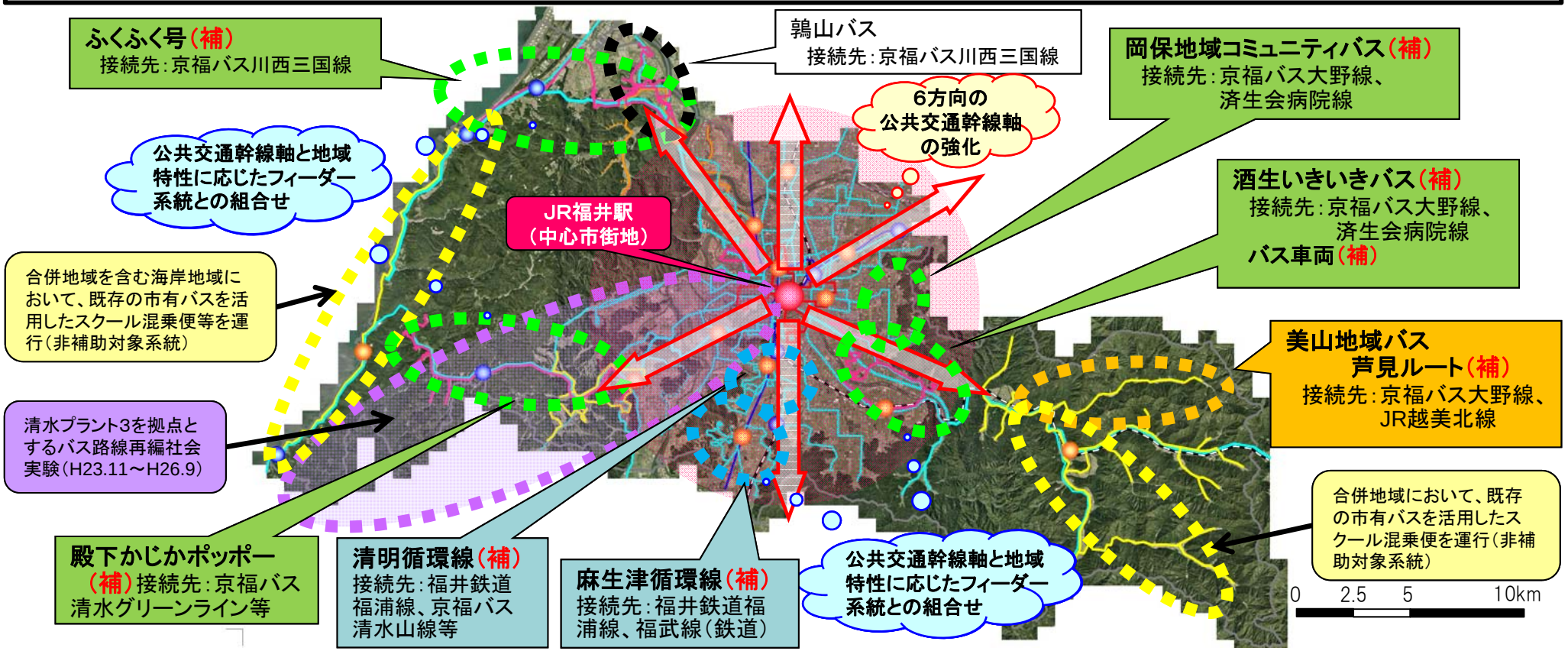
**■地域の特性**

- JR福井駅前バス乗場を中心に放射状の路線バスネットワークを形成。 ※鉄軌道は、JR北陸線、同越美北線、えちぜん鉄道、福井鉄道が南北・北東・南東方向に運行
- 区画整理等の都市基盤整備が市街化区域の約80%に達し、郊外の幹線道路沿線等において、商業・業務機能や医療機関、公共公益施設等の拡散立地が進展。
- クルマに過度に依存したライフスタイルが市民に浸透、定着。1世帯あたりの自家用車保有率は全国トップクラスで、高齢者（特に女性）の免許保有率も急激に上昇中。

**■福井市都市交通戦略※との整合性**　※平成21年2月策定　計画期間：概ね10年間

- JR福井駅を中心とする6方向の公共交通幹線軸と各地域の特性に応じた交通サービス（フィーダー路線等）との組合せによって、市内全域で利便性の高い公共交通ネットワークを構築することを基本目標としている。
- このうちフィーダー路線については、地域住民が主体的に運行計画の作成や利用促進等に取り組むことを基本としつつ、路線バス事業者の自主運行路線の計画変更等も含めて、地域に最も適した手法により、公共交通空白・不便地域の解消やサービス水準の向上を図ることとしている。

➢ **クルマがなくても安心して生活できる、コンパクトで持続可能な都市づくりの推進に寄与**



## ②地域公共交通に関する具体的取り組み及びそのプロセス（Do）

■平成26年度以前

| 事業名 | 概要 | 検討プロセス |
|---|---|---|
| 岡保地域コミュニティバスの新設<br>（H25.10運行開始） | • 地域の北部と南部とでは生活圏域が異なり、北回り系統と南周り系統の2ルートを設定（隔日運行）<br>• 日中、路線バスの空白時間帯を中心に、運行頻度を高め移動利便性の確保・向上を図る | 22年7月～9月：岡保地区住民有志による勉強会を開催<br>23年9月～：岡保地域コミュニティバス運行協議会を設置<br>月1回のペースで会議を開催し、運行構想案を検討<br>24年2月・10月：地域住民へのアンケートを実施<br>25年5月：運行事業者選定<br>6月：地域生活交通活性化会議に報告、NW計画に登載 |
| ふくふく号のデマンド型への運行形態変更 | • 効率的かつ継続的にバス交通サービスを提供していくため、定時定路線からデマンド型運行へ形態を変更 | 24年12月：地元自治会長と協議<br>25年2月：地域住民への利用実態アンケートを実施<br>25年3月：関係者協議を開催<br>25年6月：地域生活交通活性化会議に報告、NW計画に登載 |
| 酒生いきいきバス新型車両購入（H25.11） | • 本格運行に移行することを受け、小型ノンステップバスを導入 | 利用者の乗降時の安全性の確保や利便性の向上、環境負荷の低減を図る必要があることから小型ノンステップバスの導入に至った。 |

■平成27年度

| 事業名 | 概要 | 検討プロセス |
|---|---|---|
| 岡保地域コミュニティバスの事業計画の変更 | • 北回りルート：1系統を新設、一部経路変更、実車走行キロ及びダイヤの変更、バス停の新設・廃止・移設・名称変更<br>• 南回りルート：3系統を新設 | 26年4月～5月：岡保地域コミュニティバス運行協議会において市・交通事業者を交えて協議<br>6月：地域生活交通活性化会議に報告、NW計画に登載 |
| バス路線「生部みのり線」の再編に係る社会実験 | • 清水プラント3を拠点とするバス路線再編での知見を活かし、市内のバス路線を利用実態に即して再編した。<br>• 通勤通学時間帯の直通運行（バス車両）と利用が少ない昼間時間帯のデマンド型乗合タクシー（文殊山号）に再編 | 26年8月～9月：地元自治会長と協議<br>27年1月～2月：地域住民への利用実態アンケートを実施<br>27年4月～5月：地元及び関係者間での協議<br>27年6月：地域生活交通活性化会議に報告 |

## ③地域公共交通に関する具体的取り組みに対する評価（Check）

### ■NW計画に定める目標の達成状況

- 数値目標を達成したのは酒生いきいきバスのみであるが、利用者数の実績としては全体的に増加傾向である。
- 美山地域バスの利用者数が減っているが、固定利用者の減による影響と考えられる。
- フィーダー系統として、路線バスや鉄道への乗継利用のほか、地域住民同士のコミュニティの醸成も増えてきており、地域の高齢者達にとって不可欠な存在になってきているといった意義もある。

●ふくふく号（鷹巣・綟線）

| | 目標値 | 実績値 | 評価 | 前年度 |
|---|---|---|---|---|
| ①年間利用者数 | 3,300 人 | 3,072 人 | △ | 2,639 |
| ②利用者1人あたり行政負担額 | 1,800 円以下 | 1,804 円 | ○ | 2,140 |

●麻生津循環線

| | 目標値 | 実績値 | 評価 | 前年度 |
|---|---|---|---|---|
| ①年間利用者数 | 7,900 人 | 7,020 人 | △ | 6,190 |
| ②乗継切符販売数 | 30 枚/月 | 17 枚/月 | △ | 16 |

●酒生いきいきバス

| | 目標値 | 実績値 | 評価 | 前年度 |
|---|---|---|---|---|
| ①年間利用者数 | 8,900 人 | 9,328 人 | ○ | 7,965 |
| ②乗継利用の割合 | 45 % | 52.2 % | ○ | 39.4 |

※利用者アンケートにおける路線バスへの乗継の割合

●清明循環線

| | 目標値 | 実績値 | 評価 | 前年度 |
|---|---|---|---|---|
| ①年間利用者数 | 12,000 人 | 12,946 人 | ○ | 11,666 |
| ②乗継切符販売数 | 20 枚/月 | 6 枚/月 | △ | 5 |

●岡保地域コミュニティバス

| | 目標値 | 実績値 | 評価 | 前年度 |
|---|---|---|---|---|
| ①年間利用者数 | 9,000 人 | 8,234 人 | △ | 6,216 |
| ②利用者の満足度 | 4 以上 | 4.3 | ○ | 4.1 |

※利用者アンケートにおける満足度（５点満点）

●美山地域バス

| | 目標値 | 実績値 | 評価 | 前年度 |
|---|---|---|---|---|
| ①年間利用者数 | 610 人 | 341 人 | △ | 451 |
| ②利用者の満足度 | 4 以上 | 4.7 | ○ | 3.5 |

※利用者アンケートにおける満足度（５点満点）

●殿下かじかポッポー

| | 目標値 | 実績値 | 評価 | 前年度 |
|---|---|---|---|---|
| ①利用者1人あたり行政負担額 | 1,200 円前後 | 1,489 円 | △ | 1,236 |
| ②乗継利用の割合 | 50 % | 60.0 % | ○ | 42.2 |

※利用者アンケートにおける路線バスへの乗継の割合

## ④自己評価から得られた課題とその対応（Action）

**■利用が少ない地域への利用の促進（ふくふく号、殿下かじかポッポー）**

・・・利用が見込める地域への延伸も含め、利用が少ない地域への周知広報による利用促進を行う。

**■利用者への影響を最小限に抑えた合理化（酒生いきいきバス）**

・・・利用が少ない便の見直しや、利用が見込める施設等へ停留所を設置するなど効率化を図る。

**■地域住民への利用機会の拡大（岡保地域コミュニティバス）**

・・・公民館でのイベント等をコミュニティバスの運行時間に合わせて開催することで利用機会を拡大する。

**■沿線の商業施設とのタイアップによる利用促進（清明循環線、麻生津循環線）**

・・・沿線の商業施設等の協力を得て、バス利用者への優遇措置を設けることで、さらなる利用者増を目指す。

**■過疎地域における地域住民の足の確保（美山地域バス）**

・・・利用者が少なく、平成28年度以降の補助要件からは外れてしまうが、小学生や高齢者の最低限の移動手段として継続して維持していく必要がある。

## ⑤アピールポイント（特に工夫した点）

**■ 岡保地域コミュニティバス**

・ショッピングセンターを経由する便を設定するなど、住民から要望の多かった商業施設への延伸を行った。
・沿線商店の協力によるバス利用者への優遇措置を行った。
・運行ルートを見直すことで、走行距離の効率化を図った。

**■ バス路線「生部みのり線」の再編に係る社会実験**

・清水プラント3を拠点とするバス路線再編での知見を活かし、市内のバス路線を利用実態に即して再編した。
・通勤通学時間帯は直通運行（バス車両）を残し、利用が少ない昼間時間帯をデマンド型乗合タクシー（文殊山号）を運行。
・デマンド型乗合タクシーは地区内での便数増や運行エリアの拡大による利便性の向上を目指した。